

有産階級の非難の聲は甚だ耳に響き出すのである。換言すれば、われ等労働階級の奮闘の要求は一人の労働者の実施より最低賃金の制定より始り、下等階級者の「社会の改造」無産者世界（建設）に達する為には如何に堅固な團結力を持つてゐるか、を労働階級に求めたのである。此の地球の表面は我等労働者の響く時、威嚇に依つて包摂されざるを、五月一日のメーデーは世界の労働者が此日を期して一斉に休業し、その階級意識を團結力を表現して資本家輩の自領の擄取に對する抗議をする日である。故にわれ等労働者が此日を祝ふ事は、即ちわれ等が労働者解放新社会の建設に向つては、軍の執拗へ、向つてはならぬ。又此日、我等労働者も、労働者解放新社会の建設にわれ等が唄ふ處の労働者は、その階級の祝ひの、より進軍、喇叭の、あらねばならぬ。

たか

メーデーの起源

五月は萬國の労働者の祝日となつたのは、今より三十三ヶ月前の事である。即ち一九〇一年、米國労働總同盟が全米國に亘つて八時労働制を要求し、一日二十四時間の同盟罷業を行つた事には、始まる。そしてその後米國のみならず、歐洲各國の労働者が之に慣習となつて、爾來五月一日は萬國の全労働階級を共同祭日となつたのであつた。當時のメーデーの標識は、また「八時労働実施要求」の上に出でなかつた。

- 今日からは一人の労働者も
- 八時以上働くな
- 労働者の八時
- 休息の八時
- 教育の八時

労働者は、聲をあげ、斯う唄ひながら街から街へと練り歩くと、あつた。然るに、資本家は之を見、戦慄した。そして、此の立場に八時労働